

# 雲 晴

お盆号

「雲 晴」 第三十一号

令和元年七月一日発行

貞林院瑞正寺  
〒125-0041 東京都葛飾区東金町五十四六一五  
電話(03)3627-1341-1591-1591  
FAX(03)5699-1591-1591-1591

## 法句経に学ぶ 2

神田寺住職 友松浩志

こころをこめて

葺かれたる

屋舎に

雨はふるとも

漏れやぶることなし

かくのごとく

よくととのえし心は

貧欲も破るすべなし

法句経

一四

気象変動の激しいこの頃。熱暑の日もあります。

そんな気象条件の厳しい日にも、安心して過ごせる家があることは、ありがたいことです。昔のインドでも、きちんとした家があれば、豪雨を避けて安心して過ごせた、そんな情景が目に浮かびます。

お釈迦様はそこから、人のあり方を説かれます。人の心だって同じことだよ。きちんと整えておけば、つまらない欲望に左右されず平穀に過ごせますよ。欲望に流されてこまつたことになるのは、あなたの心が整えられていないからだ、と言われるのです。

誰でも、思いあたることがあるはずです。多くの失敗は、心の隙間にから入ってきた欲望によって始まるものです。うまい話しごとにつて騙されたり、友達の誘いにのつて時間を無駄にしたり、忙しいのにテレビを見てしまったり。

でも人は、なかなか心の隙間に気づかないものです。雨が降らないと屋根の隙間に気づかないように、自分の心の隙間に気づけない。雨が降つてはじめて、あんな所に穴があいていたと気づくように、失敗してはじめて心の隙間に気づくのです。

大きな失敗をする前に、安心して暮らすためにも、自分の心の隙間をよく点検し、整えておきたいのです。

## 唱歌のふるさと 童謡のくに②

著：佐山哲郎 \* 天才藤山一郎と

岡本太郎 \*

九年『赤い鳥』に、なんと岡本太郎の投稿が載っていた。

桃の花咲く里の渡しの畠

に吹き込むことになる。

明治四十四年生まれの藤山一郎が、もともと慶應出身の声楽家であることはよく知られているが、幼稚舎から、あの「芸術は爆発だ」の岡本太郎と同期だったといえれば驚かれるかもしれない。

不思議なことに童謡に関するデビューは岡本太郎が一步先。幼稚舎三年であつた大正

選者の北原白秋は、この詩を「子供らしい突飛さ」と褒めている。

一方、丈夫の藤山一郎はその翌年、教師の推薦で、童謡歌に選ばれ、早くもレコード

レコードは今も残っている。これらの数奇な事実は慶應教授池井優氏の名著『藤山一郎とその時代』における研究によるものである。

さて、彼らが幼稚舎を了え、慶應普通科に進んで、二年目、野球における早慶戦が復活することになる。

## 母が残してくれた大切な宝物



## 法然上人の御生涯② 幼名・勢至丸



今回は法然上人のご生誕をご紹介します。

方である秦氏のひとり子としてご生誕されました。法然上人のご両親はとて

いて、次のようなお話しが残されています。

法然上人は平安時代末期、も信心深く、子宝に恵まれるように神

いたんや。毅、私が死んだら家中を探してごらん。宝物がお前たちのために残してあるよ。」

（現在の岡山県久米郡久米南町）でお懐妊になつたと伝えられます。お誕生日は四月七日、お釈迦様と一日違い

（現在の岡山県久米郡久米南町）でお生まれになりました。久米の押領使（現在の知事と警察所長を合わせたような役職）である父の漆間時国とその奥

仏教へのつながりの深さを感じます。

近所の穀さんの家でお母さんの葬儀があった。その一週間後、兄弟が慌ただしく出入りし、裏の空き地で大きく火が燃え上がつているのを見た。「何をしているのだろう？」気にはなつたが、そのままその場を離れた。しばらくして、お母さんの満中陰法要の時、ようやくその意味がわかつた。

「おじょうさんなあ。母がまだ入院している時、私にこんなことを言つたんや。毅、私が死んだら家中を探してごらん。宝物がお前たちのために残してあるよ。」

しばらくして、母のこの言葉を思ひ出し、初七日を迎えた時に兄弟で話し合つた。兄弟それぞれが「宝物」とは、「きっと父が母と結婚する時に贈ったダイヤモンドではないか?」

## 一口法話

まるでひとかたならぬ法然上人のご生誕を祝福しているかのような逸話です。誕以来この椋の木は「二幡の椋」や「椋生椋」と呼ばれています。

熊谷直実（蓮生）公がこの椋の木を詠んだおうたがあります。

### 兩幡の 天下ります 椋の木は

### 世々に朽ちせぬ 法の師の跡

このおうたは、法然上人を偲ぶ二十五霊場の第一番のご詠歌となつて広く伝えられています。

またご両親の信心深さは法然上人のお名前からもくみ取ることができます。

法然上人の幼名は「勢至丸」とおっしゃいますが、この名は勢至菩薩から付けられたと伝わります。

淨土宗で多く用いられている仏像配置の阿弥陀三尊において、ご本尊阿弥陀

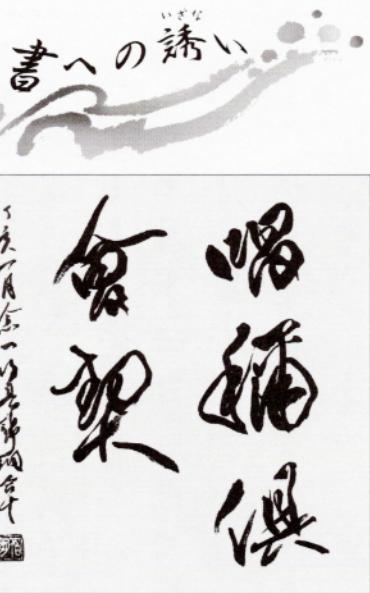
行書で書かれたこの作品は、「唱え称え俱に会える契り」となります。そのまま訳せば「唱え称え俱に会える契り」となります。淨土宗の根本經典の一つに「阿弥陀經」というものがあり、お釈迦さまは極楽淨土の様子を説くとともに極楽往生するためにはお念佛をお称えすることを勧めておりります。そしてこの「阿弥陀經」の中には「俱会一処」という言葉が出てきます。

作品に書かれた「唱え称え俱に会える契り」という教えです。亡き人との再会を必ず叶えてくださるという阿弥陀さまは、「必ず会える」という樂しみを胸にお念佛をお称えす

菩薩の配置を、阿弥陀三尊といいます。菩薩が慈悲を勢至菩薩が智慧を表します。智慧の象徴とされる勢至菩薩から名を受けられたことからもご両親の信心の深さが伺われます。その時代では比較的恵まれた家庭環境の期待通り思いやりの心をもち聰明な子供としてスクスクと成長されました。

（総本山知恩院布教師会ホームページより）

今年もまもなくお盆を迎えることとなり、仏壇のお飾りを整えお墓の掃除に行く機会がやってきます。そのような時にはただ手を合わせてお参りをするのではなく、やがては懐かしいご先祖さまや、先立たれた大切な方々と極楽浄土で「必ず会える」という樂しみを胸にお念佛をお称えするようにしましょう。



「唱稱俱会契」 故林 錦洞書

貞林院瑞正寺住職 林 清方

# 七月・八月のお盆法要

本年のお盆法要は次のとおりです。

毎年お参り頂いている月のお盆法要にそれぞれご来山下さい。

## ○七月お盆法要

七月十四日（日）午後二時より

## ○八月お盆法要

八月十三日（火）午後三時より

八月のお盆は毎年お棚経参りにお伺いしております。

本年の地区は地元大下・仲町地区にお伺いしております。

なお新盆でお棚経をご希望の方は早めに寺までご連絡下さい。

## \*仙台の浄土寺

### 本堂落慶法要\*

は団參として檀信徒と共に浄土寺さまをお訪れ、新たな地に転座されたご本尊をお参りすることができました。

本年五月二十七日に宮城教区浄土寺さまの本堂・庫裡の落慶法要が厳修されました。これまでも寺報でお伝えしてきましたが、平成二十三年三月の東日本大震災の津波により浄土寺本堂・庫裡はすべて流されてしまいました。

当山では復興支援の一助として本堂二階に安置されておりました旧瑞正寺のご本尊他数体の仏像を新本堂に納めいただきましたよう寄付いたしました。こ



のようなご縁により昨年十一月四日に  
のようなご縁により昨年十一月四日に  
に旧瑞正寺のご本尊



「新本堂の前で功德林寺御住職と」

**\*海軍十四期遺族会による靖国昇殿参拝を実施\***

当山先代の林錦洞は海軍飛行専修予備学生第十四期でした。この第十四期の遺族会（当山が事務局）として年に二回春と秋に慰靈祭を当山と高野山大圓院で行つております。毎年五月二十七日の海軍記念日（日本海開戦の日）の前後あたりには靖国神社へ昇殿参拝を行つております。本年は先代と同期生であります裏千家大宗匠の千玄室氏もご参加下さり、同期生や参加者と楽しく歓談されました。多くの若者が特攻などで犠牲となつたことに対し今後とも慰靈を続けていきたいと思います。



「左より義兄大屋幸弘・裏千家大宗匠  
千玄室氏・住職」  
(貞林院瑞正寺)